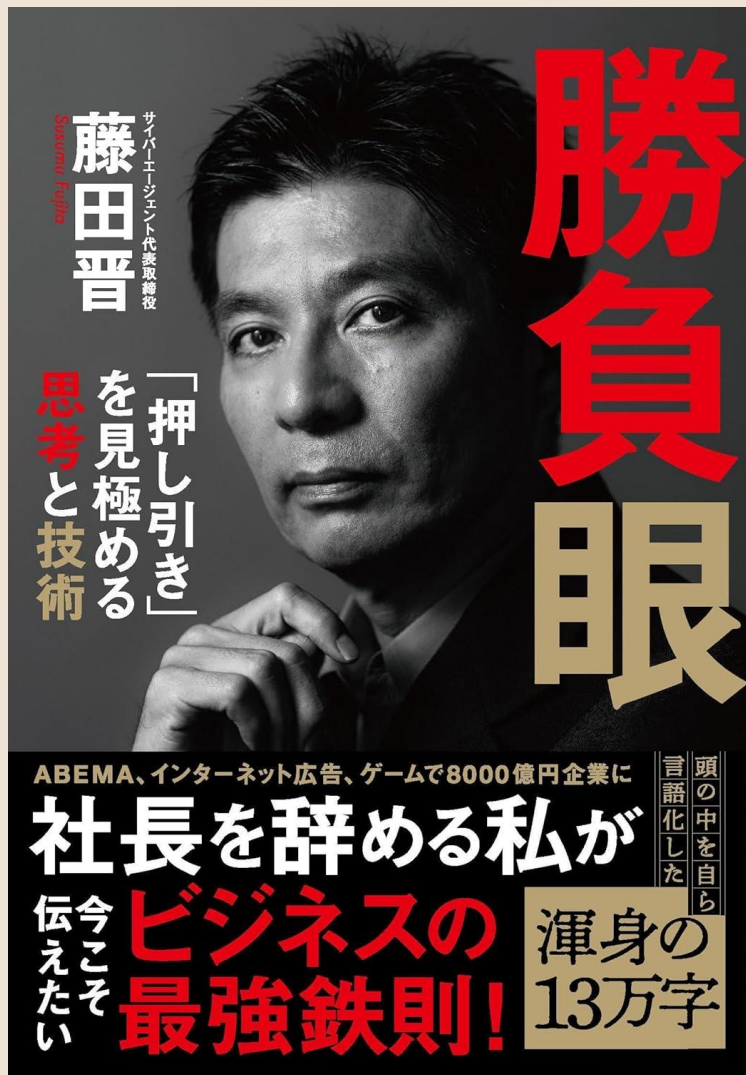


# 書籍からの学び



## 勝負眼 「押し引き」を見極める思考 と技術 藤田晋



令和7年12月6日読了

寺前総合法律事務所  
弁護士・中小企業診断士 岡崎 教行

# 自己紹介

## 寺前総合法律事務所 弁護士・中小企業診断士 岡崎 教行

### 【学歴・職歴】

平成12年 3月 法政大学法学部卒業  
平成13年10月 司法試験第二次試験合格  
平成14年 3月 法政大学大学院卒業  
平成15年10月 弁護士登録（第一東京弁護士会）  
平成27年 1月 中小企業診断士試験合格  
平成29年10月 中小企業診断士登録（城西支部）  
平成31年 2月 寺前総合法律事務所（パートナー）

### 【専門】

労働法務。取り扱う事件、相談の9割程度が労働問題。

### 【BLOG】

労働法務弁護士、がむしゃらに生きる365日  
<http://okazakinoriyuki.com/>



### 【著書】

四訂版 使用者側弁護士からみた「標準 中小企業のモデル就業規則策定マニュアル」（日本法令・共著）

社労士のためのわかりやすい補佐人制度の解説（労働新聞社）

Q&Aとストーリーで学ぶコロナ恐慌後も生き残るための労働条件変更・人員整理の実務（日本法令・共著）

就業規則からみるメンタル不調の予防と対応－規定整備のポイント－（新日本法規・共著）

基本がわかる！人事労務管理のチェックリスト（労務行政）

個人契約型社員制度と就業規則・契約書作成の実務（日本法令・共著）

毎月750円で、重要裁判例の解説を毎月お届けする「パワポとテキストで学ぶ月刊重要裁判例」



# はじめに

# CHAPTER 1

## リスクを見極める眼

今では何をするにも先手必勝を強く意識している。後手に回ると、「選択肢がなくなる」というのが嫌である。

# CHAPTER 2

## Z世代を見極める眼

大きな夢を掲げて、とか、実現したい未来が、というような、上に理想を掲げるのは動機としては全く信じていない。そういうのは長続きしないし、本当の苦しさ、辛さを乗り越えられるものではない。

町田ゼルビアの黒田剛監督が、「悲劇感を揺さぶれ」という。今の若い世代は、自分のせいで仲間迷惑をかけたくないという気持ちはとても強いが、どうしても100万円欲しいというようなハングリー精神は持っていない。

# CHAPTER 2

## Z世代を見極める眼

会社を経営していると本当にバラエティに富んだ問題が起きるので、それを再発防止するために細かいルールや規制を都度、作りたくなる衝動に駆られる。しかし、社員を子供扱いしてルールを増やせば、個人の自由な発想や情熱を奪い、組織の活力において大事なものを失ってしまう。だからサイバーエージェントでは、「自由と自己責任」をベースに個を最大限に生かすための組織づくりを心がけてきた。

# CHAPTER 2

## Z世代を見極める眼

企業の不祥事の種類は本当に多岐に及び、どこの誰から、何が起きるか、予測が本当に難しい。リスクが増えるのは、会社が成長していたり、新しいものに挑戦している証拠であり、裏返してもある。ただ、我々の表なエンターテインメントを提供する会社が過度のリスク管理とコンプライアンスに縛られて、つまらない会社にはなりたくない。だからこそ、失点を可能な限り少なく抑える努力が必要。

# CHAPTER 3

## 社交を見極める眼

「小さなことにくよくよしるよ」。これは、小さな約束を守らない人に、大きな仕事は怖くて任せられないという意味。信頼を積み重ねる上で本当に大事なこと。



# CHAPTER 4

## 勝負を見極める眼

ツイてるとき、追い風が吹いている時は、手を緩めず一気に刈り取らなければならない。それは麻雀から学んだことだ。麻雀が強いドン・キホーテの安田隆夫創業会長も、「得られる果実を完全に収穫できなかった時、地団駄踏んで悔しがる人が本当の勝負師である」と言っている。私が好きな言葉に、「得手に帆をあげて」がある。

# CHAPTER 5

## 投資を見極める眼

# CHAPTER 6

## 企画を見極める眼

# CHAPTER 7

## 組織を見極める眼

人は環境に影響を受ける、人は人に影響を受けるを強く意識して経営してきた。

誰しも自分に関心を持ってくれる人のことが好きだ。カーネギーの「人を動かす」には、「誠実な関心を寄せる」「関心のありかを見抜く」と、人に好かれるために大事なことが書かれている。

「人を動かす」ために辛抱強く相手の話に耳を傾ける。わかっていても、そんな忍耐力のある人は、経営者の中でも少ないのではないか。

# CHAPTER 8

## 社長を見極める眼

人が最もやる気を出すのは、自らが考えたアイデアを形にしていい時である。

# おわりに